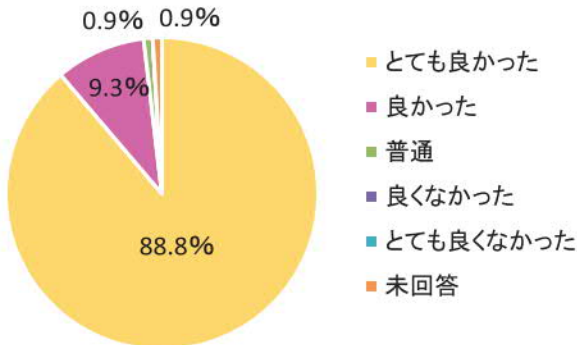


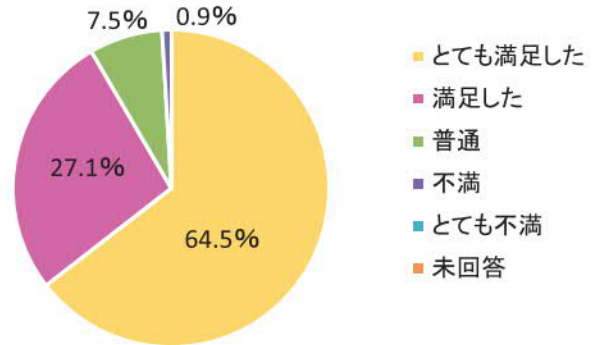
平成30年度 へき地校体験実習 事後アンケート (平成30年12月27日現在)

実施者：北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター
 実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配付
 実施期間：平成30年8月～10月
 対象者：108名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期：1週間〕履修生）
 回答者：107名（回答率99.0%）

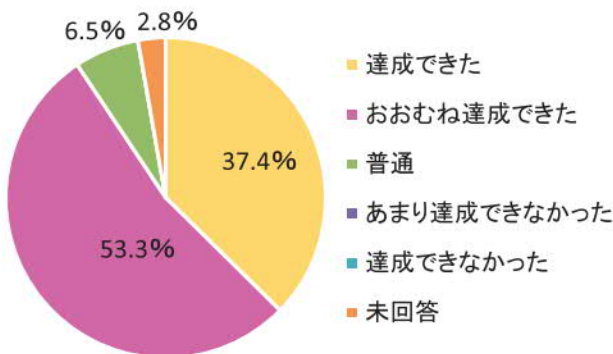
1. 実習に参加してよかったか



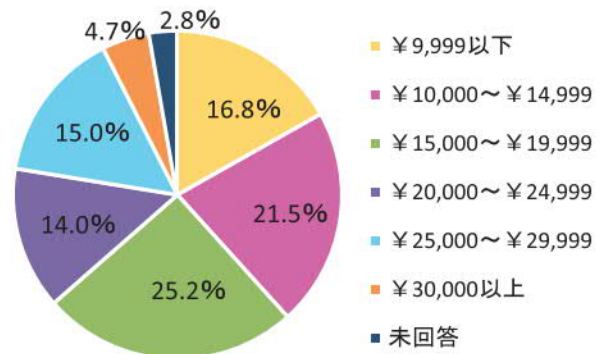
2. 実習の満足度は



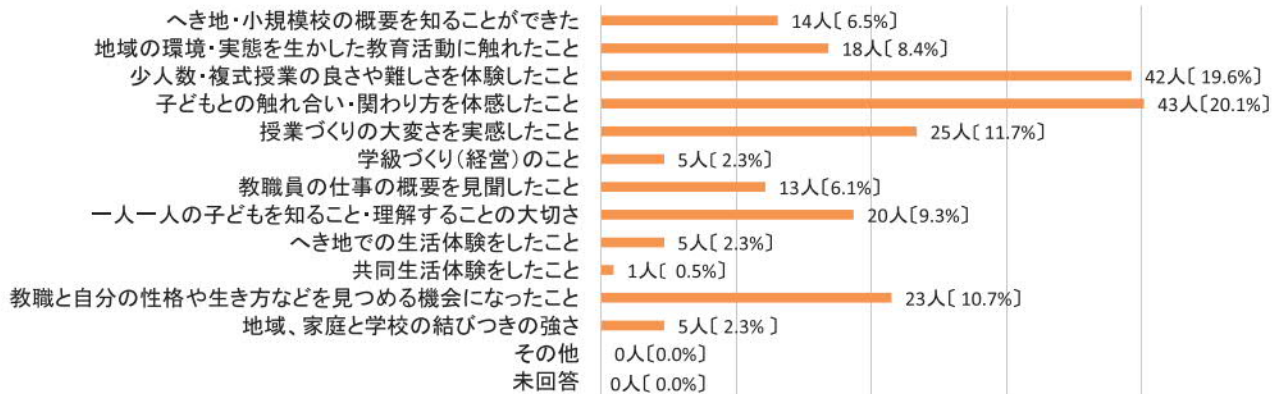
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど(1名2項目回答)



平成30年度 へき地校体験実習Ⅰ・Ⅱを終えて～受講生アンケート

1. 実習を終えた感想

- ・本免実習とは雰囲気の違い学校・学級の様子に戸惑いもあったが、教職、自分の将来についてももう一度よく考えるきっかけにもなり、参加して本当に良かった。学校での子どもたちとの関わり以外にも、きれいな景色を見たり、美味しいものを食べたり、フェリーの紙テープのお別れなど、島ならではの経験ができた。視野が広がったように感じる。
- ・実習では、へき地・小規模校であるが故のデメリットをどう克服しているのか、実際の取り組みから学ぶことができた。特に、授業における教師と子どもとの対話的な学びの重要性、間接指導に移る際の発問や指示の仕方、説明シートの効果的な活用については、とても勉強になった。
- ・今回の実習では、複式学級でどう指導が行われるかという事を見て学ぶことができた。具体的には、授業の時の間接指導が印象的で、一度国語の時間に1時間まるまる3年生が作業で4年生の授業をしているのを見た時に自分の頭の中でその考えがなかったので驚いて、そんな方法もあるのかと勉強になった。今回の実習は自分の中で新たな学びが多々あった。
- ・あっという間に5日間が過ぎてしまって、とても悲しかった。絶対いつかまた児童や先生方に会いに行こうと思えるくらいとても良い実習だったし、自分を成長させてくれた実習だった。また、自分は将来教採を道で受けるか市で受けるか、中学校で受けるか小学校で受けるか迷っているので、それを決めるための1つの良い経験になった。
- ・今回の実習では、前回2年生の時に行ったものと比べて、自分自身の成長を大きく感じる事ができた。先生方は同じ教壇に立つ人として接して下さり、教員という仕事が多様なものであるか再確認できた実習だった。
- ・小規模校の実態や、小規模ならではの工夫を感じられた。いろいろな先生方の授業を見て、それぞれの良さや指導力を吸収できた。教壇実習もさせてもらえてとても良い経験になった。反省会ではいろいろなアドバイスをいただけて、今後に生かそうと思った。とても勉強になる実習だった。
- ・教育実習へ行き、実際に中学生と関わってみると、小規模校の小さいコミュニティの中でしか人と関わってこなかった生徒に心を開いてもらうことが難しかった。しかし、そのことから、受け身ではなく教師から生徒へと向かっていかなければならないことや、「教師として」の関わり方を学ぶことができ、来年の5週間ある本免実習に生かしていけると思った。
- ・子どもと関わる事が思った以上に楽しかった。休み時間や放課後にたくさん関わり、遊ぶことで自分が子どもが好きなのかどうか確かめられたと思う。教員になることを目指して頑張っていこうと決心するきっかけになった。
- ・台風、地震などにより実習自体は短くなってしまったが、災害時の学校の対応も知ることができ、今後に生かせる深い学びとなった。“へき地での教育”について学ぶだけでなく、教員としての生き方や教育そのものについて根本的に考え、また教えていただくことができた。地域の皆さんの温かさを感じた、とても濃い一週間となった。
- ・実際に教育現場に行くことでしか分からないことがたくさんあった。生徒との関わり合いだけでなく、教師が1つのチームとして、生徒と向き合うことの大切さも学んだ。また、へき地校ならではの地域性を生かした教育現場を体験できて良かった。
- ・行く前と行った後では、講義を受けていても、「ああ、あのときの」「こうすればよかったのか」など多くのことがつながり、具体的な考えを持ちながら授業を受けられるようになった。
- ・実習を終えて、へき地・小規模校について、特色を考察することができ、地域との連携、つながりの深さを体験することができ、とても貴重な一週間となった。生徒理解の大切さについて考え、学ぶ良い機会となったと思う。

- ・実習を終えて、教師の仕事の多さ、家庭・地域との連携の難しさを学んだ。しかし、それ以上に、生徒たちと関わる楽しさ、生徒の成長を見届ける感動などが日々あると感じた。
- ・この実習に参加して、達成感や喜びを感じることができ、教師になりたいという気持ちが強まった。今後の学校生活の中で、様々な壁が立ちはだかるのではないかと思う。そのときには、実習での楽しかった思い出を原動力にし、児童や先生方から教えていただいたことを生かして頑張りたいと思う。
- ・へき地校実習に行ってみて、本当に良かったと思う。普段の授業で聞くよりも、実際の現場に立ち、自らアクションを起こすことで見えてくるものがあると感じた。来年の本実習に向けてもよい経験を踏むことが出来、課題が見つかった反面、達成感や自信にもつながることがあったので、本当に良い機会であった。
- ・あつという間だった。しかし、濃い内容だった。へき地に行くまで不安や心配があったが、行ったらあつという間だった。基礎的な力を、実習に行く前につける必要性を改めて感じた。
- ・実習校のあたたかさのおかげで、一週間の泊まりこみも全く苦ではなかった。児童全員がまるで自分の配属学級の児童であったかのような、一人一人と関われ、学習においても1人の学年、2人の学年と、それぞれの良さ、難しさについて考えられ、有意義な時間だった。
- ・複式授業の様子を毎日観察できたことはとても良かった。今後、もっと増えるであろうへき地校の勉強をすることができ、とても勉強になった。
- ・今回の実習で、やっぱり十勝で働きたいと思った。そして教師になろうと強く思うことができた。
- ・校長先生や教頭先生の講話は本当に学ぶことが多かった。どのような教師になりたいのか、イメージを持つことができた。へき地（主に十勝）で働くことも良いと思った。
- ・初めて中学校に実習させていただき、小・中のそれぞれ良いところ、それぞれの色について触れることができた。それだけでなく、実際に子どもと関わることで、よりへき地というものの良さ、そこで働きたい、子どもを育てたいと思うようになった。
- ・想像以上に楽しくて、あつという間だった。きっと普通にフィールドへ行っているだけではできないような、羊当番や教育長への挨拶、盲学校交流、農業体験など、貴重な経験をさせていただき、充実した5日間となった。子どもたちとの距離も思っていたより縮めやすく、たくさん交流することができたので、かかわり方も学ぶことができて良かった。
- ・とにかく“楽しかった”と言える実習だった。学校行事の他にも農業体験として牛とふれ合う機会を用意してくださって、とても充実した5日間だった。子どもたちもいつも目がキラキラしていて、毎日楽しいんだろうなあと感じた。機会があればもう一度行きたい。